



////////////////////////////////////

日本植物分類学会 ニュースレター

////////////////////////////////////

No. 63

Nov. 2016

今号のトピックス

12/17 (土) 大阪学院大学にて講演会が開催されます (3 ページ)

3/9 ~ 3/12 開催の京都大会の詳細・申込情報があります (5 ページ)

2017 年度の会費納入は今年 12 月末が期限です (12 ページ)

ご協力をよろしくお願い申し上げます

目 次

次期 (2017-2018 年度) の幹事について	2
お知らせ	
2016 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ	3
日本植物分類学会第 16 回大会 (京都) および	
2017 年度総会のご案内	5
寄稿	
学名のラテン語 (19)	10
会員消息	12

次期 (2017-2018 年度) の幹事について

庶務幹事 志賀 隆

次期の庶務幹事を国立科学博物館の田中さんにお引き受けいただきました。これに伴い、2017年1月1日から学会事務局の連絡先が次のとおりに変更されます。お間違のないようご注意ください。なお、会計幹事、図書幹事、ニュースレター担当幹事、ホームページ担当幹事は現在の幹事が引き続き担当することになりました。これらに関する問い合わせは従来と変更ありませんが、何かありましたらご連絡下さい。

事務局・庶務幹事 (会務全般)

田中 伸幸 (たなか のぶゆき)

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

国立科学博物館 植物研究部

電話 / ファックス : 029-853-8979/029-853-8401

電子メール : nobuyuki_tanaka@kahaku.go.jp

会計幹事 (入会申込, 住所変更, 退会, 会費納入, 購読申込など)

池田 啓 (いけだ はじめ) [継続]

〒710-0046 岡山県倉敷市中央 2-20-1

岡山大学 資源植物科学研究所

電話&ファックス : 086-434-1240

電子メール : ike@okayama-u.ac.jp

図書幹事 (バックナンバー・文献閲覧の問い合わせ)

高野 温子 (たかの あつこ) [継続]

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘 6 丁目

兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境評価研究部

電話 / ファックス : 079-559-2011/079-559-2019

電子メール : takano@hitohaku.jp

ニュースレター担当幹事 (ニュースレター原稿送付先)

堤 千絵 (つつみ ちえ) [継続]

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

国立科学博物館 植物研究部

電話 / ファックス : 029-853-8428/029-853-8998

電子メール : tsutsumi@kahaku.go.jp

ホームページ担当幹事 (ホームページ・メーリングリストに関する問い合わせ)

矢野 興一 (やの おきひと) [継続]

〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町 1-1

岡山理科大学 生物地球学部 生物地球学科

電話&ファックス : 086-256-9612

電子メール : yano@big.ous.ac.jp

お知らせ

2016年度日本植物分類学会講演会のお知らせ

講演会担当委員 岡崎 純子

2016年度の日本植物分類学会講演会を次のとおり開催します。なお、会場は大阪学院大学の林一彦先生にお世話いただきます。今年は長くこの講演会の会場を提供し、お世話くださった林先生のご定年の年にもあたり、感謝も込めて最後に先生の研究のお話をさせていただくことを予定しております。また今年の秋には京都大学名誉教授 河野昭一先生がお亡くなりになりました。河野先生は京都大学植物標本庫（KYO）の発展とその多くを収蔵した京都大学総合博物館の創立にご尽力され、理学研究科教授と併せて総合博物館の初代館長も務められました。植物分類学への貢献は大きく、演者の林先生、藤井さん、田村さん、工藤さんをはじめ、河野先生のもとで学び現在ご活躍の方々が多くいらっしゃいます。今回、工藤さん、田村さんには河野先生を偲び河野先生の思い出についてお話いただき、さらにご自身の研究や材料のスライド講演など楽しくお話いただくようお願いしております。現代植物分類学の幅広い話題と美しい植物達の姿を楽しみに是非ご参加ください。

【日時】 2016年12月17日（土）午前10時～午後5時

【講演会場】 大阪学院大学2号館地下1階2号教室（02-B1-02教室）

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南2丁目36番1号（電話：06-6381-8434）

【プログラム】

10:00-10:05 ご挨拶 角野 康郎（学会長）

10:05-10:55 藤井 伸二 「海岸線の植物」

11:05-11:55 岩崎 貴也 「日本の温帯林植物における集団分化の歴史：現在の遺伝的地域性はどのようにして形成されたか？」

(11:55-12:50 昼食)

12:50-13:40 海老原 淳 「日本産シダ植物の多様性総覧を目指した新図鑑の試み」

13:50-14:40 戸部 博 「ハナイカダとその仲間に見られる花と生殖器官の進化」

(14:40-15:00 休憩)

15:00-15:30 工藤 洋 「河野先生とのフィールドワーク」

15:30-16:00 田村 実 「広義ユリ科の世界」（スライド講演）

16:00-16:50 林 一彦 「ユリ属植物の故郷をめぐって」

【その他】

参加費としてお茶代（100円）を徴収いたします。また講演会終了後、大阪学院大学職員食堂（17号1階）で懇親会を行います。参加費は4,000円（院生・学部学生には割引あり）です。できれば事前に okazaki@cc.osaka-kyoiku.ac.jp に連絡いただくとありがたいですが、当日申込も可能です。

【会場までのアクセス】

JR 東海道本線岸辺駅あるいは阪急京都線正雀駅から大阪学院大学までともに徒歩5分。大阪学院大学HP (<http://www.osaka-gu.ac.jp/guide/campus/access.html>) の「交通アクセス」と「キャンパスマップ」をご覧ください。

【講演内容（執筆は各演者）】

「海岸線の植物」

藤井 伸二（人間環境大学 人間環境学部）

海岸には様々な環境があります。砂浜、岩場、塩性湿地など、実に多様です。地形的にみても、海跡湖、砂丘、砂州、海岸段丘など各種の類型があります。なかでも、リアス式海岸にしばしば成立する小規模海跡湖はその一つ一つの表情が異なっていて、たいへん興味深いものです。ヒメキカシグサ（唯一の現存群落?）も確認されています。海跡湖を中心に、多様な海岸線の環境と植物を紹介します。

「日本の温帯林植物における集団分化の歴史：現在の遺伝的地域性はどのようにして形成されたか？」

岩崎 貴也（京都大学 生態学研究センター）

過去に訪れた氷期間氷期の影響を受け、野生生物はその分布域の中で地域ごとに少しずつ遺伝子が異なっていることが知られています（＝遺伝的地域性）。この遺伝的地域性は地域固有の自然遺産とも呼べるものであり、現在では生物多様性の4階層のうちの1つである遺伝子の多様性として、保全の際にも考慮されるようになってきています。今回は、日本の温帯林植物（複数の樹木種、コンロンソウ、ミスミソウなど）について、近年の研究によって明らかとなった遺伝的地域性のパターンを紹介します。特にミスミソウについては、コアレセントシミュレーションという手法を用いて推定した詳細な集団分化・多様性の歴史についても紹介したいと考えています。

「日本産シダ植物の多様性総覧を目指した新図鑑の試み」

海老原 淳（国立科学博物館）

現在刊行中の『日本産シダ植物標準図鑑』（全2巻）には、検索表の代わりにマトリックス形式の形態比較表が収録され、種間の関係が系統樹によって示されるなど、従来の図鑑には見られなかった試みが盛り込まれています。また、1990年代までに既に作成されていた証拠標本に準拠した分布図を、全国規模の組織の支援を得てアップデートするプロジェクトが並行して進められました。日本産シダ植物の多様性に関する情報を集約した「多様性総覧」を企図した本図鑑は、果たして受け入れられるのでしょうか…？ 試行錯誤の顛末と、結局実現できなかった課題も含めてご紹介します。

「ハナイカダとその仲間に見られる花と生殖器官の進化」

戸部 博（京都大学 名誉教授）

ハナイカダは葉の上に花（花序）をつけるのが特徴で、日本の温帯林に普通に見られる落葉性低木の種です。かつてはミズキ科に含まれていましたが現在ではモチノキ目の中にハナイカダ属（東アジアの4種）のみからなるハナイカダ科として分類されています。ハナイカダ科に最も近い科が中米に分布するフィロノマ属（4種）のみからなるフィロノマ科です。フィロノマ科もまた葉の上に花序をもちます。本講演では、ハナイカダ科とフィロノマ科を中心にモチノキ目の花と生殖器官の特徴やその進化について紹介します。

「河野先生とのフィールドワーク」

工藤 洋（京都大学 生態学研究センター）

河野昭一先生は、日本各地、世界各地で精力的にフィールドワークを実施され、研究室の学生を様々なところに同行されていました。特に、第三紀周極要素に着目し、東アジアと北米に隔離分布する種群について、様々な側面から解析を行いました。私の講演では、先生とでかけたフィールドでの様子を紹介するとともに、先生のご指導の下に行った研究とその後の発展について紹介します。

「広義ユリ科の世界」（スライド講演）

田村 実（京都大学大学院 理学研究科）

河野昭一先生と林一彦先生は、特に生活史研究・核型分析・分子系統解析の観点から、広義ユリ科に深く関わってこられました。その広義ユリ科は、分子系統樹に基づくAPG分類体系で細分化され、5つの目にまたがる結果となっています。広義ユリ科にはどんな植物があるのか、それらは現在のAPG IV

(2016) では何科に分類されているのかについて、世界のいろいろな調査地で撮影した写真を使いながらご紹介いたします。

「ユリ属植物の故郷をめぐって」

林 一彦 (大阪学院大学 経済学部)

ユリ属植物は、どこで起源したのでしょうか。ユリ属植物の分類は、Wilson (1925) が主に花形にもとづく分類体系を構築し、Comber (1949) による形態的・生態的形質を多数もちいた分類系をへて、さらに Lighty (1960, 1968) が交配結果や染色体の比較を通じて完成されたように見えました。しかし、Nishikawa et al. (1999), Hayashi & Kawano (2000) および Chang et al. (2011) さらに Du et al. (2014) による分子系統樹の導入によって section のレベルでは Comber (1949) の体系がほぼ支持されることが判明してきました。一方、Patterson & Givnish (2002) は、分子系統樹と地理的分布からユリ属植物の故郷がヒマラヤであると主張しました。はたしてそうなのでしょうか。分子系統樹を手がかりに地理的分布、交配様式、地史的変遷を考慮して考えてみます。また、ユリ属植物のたくましさも紹介します。

日本植物分類学会第 16 回大会 (京都) および 2017 年度総会のご案内

第 16 回大会会長 田村 実

日本植物分類学会第 16 回大会および 2017 年度総会を、2017 年 3 月 9 日から 12 日の日程で、京都で開催いたします。皆様のご参加を心からお待ちしております。

また、本大会のホームページを以下のアドレスで公開しております。大会に関する案内や最新情報をご覧になれますので、是非ご覧下さい。<http://www.e-jsps.com/jsps16/top.html>

なお、本大会では、少しでも多くの学部学生の方々に植物分類学の魅力を伝えたいという思いから、学部学生の参加費を無料にしております。



大会ロゴマーク (フタバアオイ)

【本会場】京都大学 吉田キャンパス 北部構内 (京都市左京区北白川追分町)

理学研究科6号館：口頭発表、総会、授賞式

理学研究科セミナーハウス：ポスター発表

詳しいアクセスは下記リンクをご参照下さい。

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r_n.html

【受賞記念講演・公開シンポジウム会場】

「京都学・歴彩館」(京都市左京区下鴨半木町/建設中・京都府立植物園の東隣)

なお、大会参加者は当日京都府立植物園に無料で入園できます。詳細については、大会ホームページおよびニュースレター 64 号でご案内します。

【各種委員会会場】京都大学 吉田キャンパス 北部構内 (京都市左京区北白川追分町)

理学研究科2号館：編集委員会、評議員会

【日程】2017 年 3 月 9 日 (木) ~ 3 月 12 日 (日)

3 月 9 日 (木) 午後 編集委員会, 評議員会

3 月 10 日 (金) 午前・午後 口頭発表, ポスターセッション

3 月 11 日 (土) 午前 口頭発表

3月11日(土)午後	総会, 授賞式, 口頭発表
夜	懇親会(場所:メルパルク京都)
3月12日(日)午前	受賞記念講演
午後	公開シンポジウム

3月13日(月)には, 希望者向けに京都大学植物標本庫(KYO)見学ツアーを京都大学総合博物館で行います。見学希望者は大会参加申込の際にお申し込み下さい。

なお, ポスターセッションは3月10日(金)を予定していますが, 11日(土)も引き続き掲示していただきますようお願い致します。

【第16回大会ホームページ】

大会準備の進捗状況やプログラムなど, 情報を随時アップロードします。

<http://www.e-jsps.com/jsps16/top.html>

【お問い合わせ先】

事務局長: 布施 静香

連絡先: 日本植物分類学会第16回大会(京都)実行委員会

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院理学研究科植物学教室内

Tel & Fax: 075-753-4145

E-mail: jsps16@sys.bot.kyoto-u.ac.jp

(お問い合わせの場合には, できるだけ電子メールをお使い下さい)

【発表の要領】

●口頭発表

発表時間は, 講演10分, 質疑応答2分の計12分の予定です。ただし, 講演件数により, 1件あたりの発表時間は短縮・延長される場合があります。発表時間が変更された場合は, 大会ホームページおよびニュースレター64号で連絡します。

なお, 口頭発表の際には液晶プロジェクターを準備しますが, 発表用パソコンは各自でご用意下さい。独自の接続ケーブルが必要な場合は, 各自でご用意下さい。

パワーポイントのスライド作成にあたっては, 色覚バリアフリープレゼンテーション法に関するサイト <http://www.nig.ac.jp/color> をぜひご一読下さい。

●ポスター

ポスター用ボードのサイズは, 縦180cm×横90cmです。貼付け用テープ等は大会実行委員会でご用意します。3月10日(金)午前8時30分～11時30分に貼付けを行って下さい。会場の都合上, 11日(土)午後5時30分までにポスターの撤去をお願いします。

【発表・参加申込方法】

大会には日本植物分類学会会員・非会員を問わずにご参加いただけますが, 口頭およびポスターで実際に発表する方は, 特に依頼した場合を除き, 会員に限りません。非会員の講演者は, 申込と同時に日本植物分類学会への入会手続きをお願いします。

第16回大会ホームページ (<http://www.e-jsps.com/jsps16/top.html>) から発表・参加申込書へリンクが張られていますので, 用紙をダウンロードして必要事項を記入または選択の上, ファイル名を参加者本人の氏名とし, 件名を「学会申込」とした電子メールに添付して, sanka16@sys.bot.kyoto-u.ac.jp宛に送信して下さい。

送信してから3日経っても(土日・祝日を除く)大会実行委員会から受信の返事がない場合は, メールの件名を「学会申込再送信(参加者氏名)」に変更した上で, 同じメールを送信して下さい。電子メールを利用できない方は, 本ニュースレター案内の9ページに記載されている「発表・参加申込書」に

必要事項を記入の上、大会実行委員会宛に郵送でお送り下さい。その際には、締切日にご注意下さい。発表・参加申込のファックスによる送付は受け付けません。

【大会発表賞へのエントリー】

大会発表賞（口頭発表賞またはポスター発表賞）にエントリーされる方は、発表・参加申込書「8. 口頭発表賞・ポスター発表賞へのエントリー」の項目で、「(1) する」を選択して下さい。なお、大会発表賞へのエントリー資格のある方は、日本植物分類学会の会員で、パーマネント・ポストに就いてない研究者（年齢制限はありません）で、筆頭発表者かつ実際に発表する方本人です。

【発表要旨】

発表要旨の原稿は、以下の書式で作成してください。大会ホームページに雛型があります。

発表題目、1行空白、発表者氏名（かっこ内に所属）、1行空白、要旨本文の順に記入し、実際に発表する方の氏名の右肩に「*（半角）」を入れて下さい。1行の文字数は全角で41字、発表題目、発表者氏名（所属）、空白行を含めて22行以内にして下さい。発表要旨に図表は使用できません。パソコンの機種に依存する特殊文字は、フォントの文字化けなどを起こす可能性があるため使えません。

作成した発表要旨の原稿は、MS（マイクロソフト）Word 2013 (Windows) で読込可能な形式で保存して、ファイル名を実際に発表する方のフルネームとし、件名を「発表要旨（実際に発表する方の氏名）」とした電子メールに添付して、youshi16@sys.bot.kyoto-u.ac.jp（メールアドレスが参加・発表申込と異なりますのでご注意ください）宛に送信して下さい。あるいはファイルの入ったCD-Rを下記住所まで郵送して下さい。

送信してから3日経っても（土日・祝日を除く）大会実行委員会から受信の返事がない場合は、メールの件名を「発表要旨再送信（実際に発表する方の氏名）」と変更した上で、同じメールを送信して下さい。

なお、印刷の都合で体裁を変更する場合がありますのでご了承下さい。MS Word を使って要旨原稿ファイルを作成することが困難な発表者の方は、大会実行委員会までご連絡下さい。要旨の作成方法をご相談させていただきます。要旨のファックスによる送付は受け付けません。

【大会参加と発表申込の送付先・締切】

郵送先：〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院理学研究科植物学教室
布施静香

E-mail：sanka16@sys.bot.kyoto-u.ac.jp

演者（実際に発表する方）：発表・参加申込 2017年1月20日（金）必着

演者以外：参加申込 2017年2月3日（金）必着

2月4日（土）以降は大会・懇親会参加費が増額されますので、なるべくお早めにお申し込み下さい。また、2月4日（土）以降は振込まず、当日参加をご利用下さい。

【発表要旨原稿の送付先と締切】

郵送先：〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院理学研究科植物学教室
布施静香

E-mail：youshi16@sys.bot.kyoto-u.ac.jp（参加・発表申込先と異なります）

E-mail, CD-R 郵送共に2017年2月3日（金）必着。

【参加費送金先】

郵便振替口座番号：00980-2-210351

口座名義：日本植物分類学会第16回大会実行委員会

送金には同封（または郵便局備え付け）の振込用紙を使用し、必ず振込金額の内訳（大会参加費、懇親会参加費、弁当代等）を通信欄に記入して下さい。また、振込者と参加者は同一にして下さい。参加申込みの際に、振込の日付と振込郵便局名が必要になりますので、必ず参加申込前に振込を終えて下

さい。振込手数料は、ご自身でご負担下さい。

【懇親会】

メルパルク京都（京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町 676-13）で行います。JR 京都駅（烏丸中央口）から東へ徒歩約1分です（<http://www.mielparque.jp/kyoto/access/>）。

【参加費】

大会参加費（発表要旨集1冊代金を含む）：

事前申込（2月3日（金）までの振込） 一般 4,000 円 学生（院生以上）2,000 円

当日参加申込 一般 5,000 円 学生（院生以上）3,000 円

事前申込の学部学生は、参加費と要旨集1冊がともに無料です。当日参加申込の学部学生については、参加費は無料ですが、要旨集はお渡ししない予定ですので、事前申込をお勧めします。

懇親会参加費：

事前申込（2月3日（金）までの振込） 一般 7,000 円 学生 4,000 円

当日参加申込の場合 一般 8,000 円 学生 5,000 円

3月10日（金）、3月11日（土）の昼食弁当代 各 800 円

昼食弁当は予約制です。参加申込の際に一緒にお申込ください。

【昼食】

3月10日（金）は最寄の大学生協食堂が営業しています。また、10日（金）、11日（土）は予約分の個数のみお弁当を用意しますので、ご希望の方は参加申込時にお申込み下さい。なお、大学周辺には、コンビニや土曜日でも営業している飲食店があります。12日（日）については、近隣の飲食店等をご利用ください。

■大会参加の各締切

区分	項目	締切
発表する人 (演者)	大会参加費 / 懇親会 / 昼食弁当代の振込 一般 4,000 円 / 7,000 円 / 800 円 学生（院生以上）2,000 円 / 4,000 円 / 800 円 学生（学部学生）0 円 / 4,000 円 / 800 円	発表申込より前
	発表申込メール送信 sanka16@sys.bot.kyoto-u.ac.jp	1月20日（金）
	発表要旨送信・CD-R 送付 youshi16@sys.bot.kyoto-u.ac.jp	2月3日（金）
参加する人 (演者でない共同発表者を含む)	大会参加費 / 懇親会 / 昼食弁当代の振込 一般 4,000 円 / 7,000 円 / 800 円 学生（院生以上）2,000 円 / 4,000 円 / 800 円 学生（学部学生）0 円 / 4,000 円 / 800 円	参加申込より前
	参加申込メール送信 sanka16@sys.bot.kyoto-u.ac.jp	2月3日（金）
当日参加の人 (2月4日以降は当日参加をご利用ください)	会場受付で参加申込・支払 大会参加費 / 懇親会 一般 5,000 円 / 8,000 円 学生（院生以上）3,000 円 / 5,000 円 学生（学部学生）0 円 / 5,000 円	

【託児室について】

本大会では託児室(有料)ならびにオムツ交換と授乳のためのスペース(無料)の開設を検討しています。利用をお考えの方は、2016年12月28日(水)までに大会実行委員会へご相談ください。

【受賞記念講演と公開シンポジウム】

学会賞と奨励賞の受賞記念講演の後、公開シンポジウム「春が来た!野山の草のサイエンス」を開催します。ともに一般公開で参加は無料です。詳細は大会ホームページやニュースレター64号でお知らせします。

公開シンポジウムの講演者と演題(予定):

西田 佐知子(名古屋大学博物館)「セイヨウはなぜ強い?タンポポから探る繁殖干渉」

亀岡 慎一郎(京都大学人間・環境学研究所)「雪割草の花は、なぜ多彩なのか」

長澤 淳一(京都府立植物園長)「春の植物」

【標本庫見学】

日時:2017年3月13日(月)午前9:30~11:00

希望者向けに京都大学植物標本庫(KYO)見学ツアーを京都大学総合博物館にて行います。希望者は参加申込の際にお申し込み下さい。なお、ツアー中は自由に標本閲覧していただくことはできません。ご了承ください。

【宿泊施設】

宿泊に関しては各自でご予約下さい。春の京都は宿が取りにくい可能性がありますので、予約はお早めをお願いします。

【大会会場へのアクセス】

本会場である京都大学吉田キャンパス北部構内への主な公共交通機関は以下の通りです。大学構内は駐車していただくことができませんので、公共交通機関をご利用下さい。

京都市バス17号系統「京大農学部前」バス停から徒歩1分。京都市バス201号系統「百万遍」バス停から徒歩約10分。京阪電車「出町柳」駅から徒歩約20分。

詳しいアクセスは下記リンクをご参照下さい。

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r_n.html

寄稿

学名のラテン語(19)

永益 英敏(京都大学総合博物館)

種と種内分類群の学名の形容語-属格の名詞(4):地名と生育環境**・地名に由来する形容語**

地名に由来する形容語については、「60D.1.地名に由来する形容語は形容詞であることが望ましく、通常 *-ensis*, *-(a)nus*, *-inus* または *-icus* などの語尾をとる。」と「命名規約(ICN)」に勧告されている(McNeill et al. 2012)。

これは、ラテン語やギリシャ語による伝統的な地名でない場合、人名のように規則的にラテン語化する(永益 2015)ことが難しいことによる。また、伝統的にラテン語化された地名をもつヨーロッパや地中海世界では同時にその形容詞形も確立しているため、地名を示す形容語は形容詞が用いられることが多い。たとえばギリシャのクレタ島 *Creta* に由来する形容語は属格の *cretae* ではなく、形容詞の *creticus* ま

たは *cretensis* が好まれる。

しかしながら、伝統的なラテン語名をもたない地名では、ラテン語化された地名の属格を用いることがある。サハラ砂漠を意味する Sahara はアラビア語に由来し、ラテン語の第一変化名詞として扱い、属格の *saharae* を形容語とすることが一般的である。Sumatra (スマトラ島) から *sumatrae*, Java (ジャワ島) から *javae*, また、日本の地名でも語尾が -a で終わる場合には第一変化名詞として扱い、富士山から *fujiyamae*, 屋久島から *yakushimae* とすることもできるが、こちらはあまり一般的ではない。

ヒマラヤの植物にしばしば使われている形容語の *emodi* は、ヒマラヤ山脈東部を意味した Emodon (中性名詞) または Emodos, Emodus (男性名詞) の属格 (いずれも第二変化名詞) である。この名称はストラボンの『地理書 Geographica』に現れ、Mons Emodus または複数形で Montes Emodi と表現されることがある。この Emodus を単数属格として *emodi* としたり、複数属格として *emodorum* という形容語がつけられている。

また Nova Anglia (ニューイングランド) のように、通常 2 語からなる地名のような場合、形容語としては属格の *novae-angliae* の使用が好まれる。この例には、*insulae-pinorum* (主格は Insula Pinorum で pinorum は pinus の複数属格, [ニューカレドニアの] イル・ド・パン [松の島] の), *maris-mortui* (主格は Mare Mortuum, 死海の), *novae-zelandiae* (主格は Nova Zelandia, ニューゼーランドの), *sanctae-helenae* (主格は Sancta Helena, セントヘレナの), などがあり、日本の地名の例では *montis-koyae* (主格は Mons Koya, 高野山の) がある。2 つの語のどちらも属格となっていることに注意したい。オドリコカグマ *Microlepia izu-peninsulae* (主格は Izu Peninsula, 伊豆半島の) では、*izu* も属格であるはずだが、-a で終わらない日本の地名のためラテン語風の属格をつくれず、このような表現となっている。合成語の形容語の中でハイフンの使用は訂正されるべき誤りとして扱われるが、形容語が通常独立に用いられる複数の語からつくられている場合にはハイフンの使用を保持してよい (ICN 60.9)。

土地の名が、そこに住む民族の名称 (複数形) で呼ばれている時、この民族名の複数属格を形容語として用いることがある。例は少ないが、*anglorum* (複数主格は Angli, アングル [イギリス] 人の), *bataavorum* (複数主格は Batavi, バタウィ [オランダ] 人の), *carduchorum* (複数主格は Carduchi, クルド人の), *graecorum* (複数主格は Graeci, ギリシャ人の) などがある。

・生育環境を示す形容語

複数属格の名詞は生育環境を示す形容語としても用いられる。*clivorum* (単数主格は clivus, 傾斜地の, 丘陵の), *hortorum* (単数主格は hortus, 庭の), *insularum* (単数主格は insula, 島々の), *lacunarum* (単数主格は lacuna, 池の), *montium* (単数主格は mons, 山の), *saxorum* (単数主格は saxum, 岩場の), *segetum* (単数主格は seges, 耕作地の)。ラテン語の複数属格の常として語尾が -um で終わるので、第一第二変化形容詞の単数中性語尾と間違いやすい。ICN 第 23.5 条実例 7 に *segetum* を形容詞の単数中性と誤った例がある。この誤りは訂正可能な誤りとして扱われる。

McNeill, J. et al. (eds.) 2012. International Code of Nomenclature for algae fungi, and plants (Melbourne Code). Koeltz Scientific Books, Königstein.

永益英敏. 2015. 学名のラテン語 (17) 種と種内分類群の形容語-属格の名詞 (2) 人名を記念した形容語 1. 日本植物分類学会ニュースレター 56: 17-18.

編集室より

書評をいくつか書いていたのですが、ページの都合で今回は見送ることになりました。約束していた方には申し訳ありませんが、もう少しお待ちください。

ニュースレター担当幹事になりはや 2 年。次期も担当することになりました。ニュースレター 61 号の乱丁では大変ご迷惑をおかけしましたこと、深くお詫び申し上げます。引き続き、楽しく役立つ紙面になるよう、少しずつ改善していきたいと思っていますので、今後どうぞよろしく願いいたします。
(ニュースレター担当幹事 堤 千絵)

